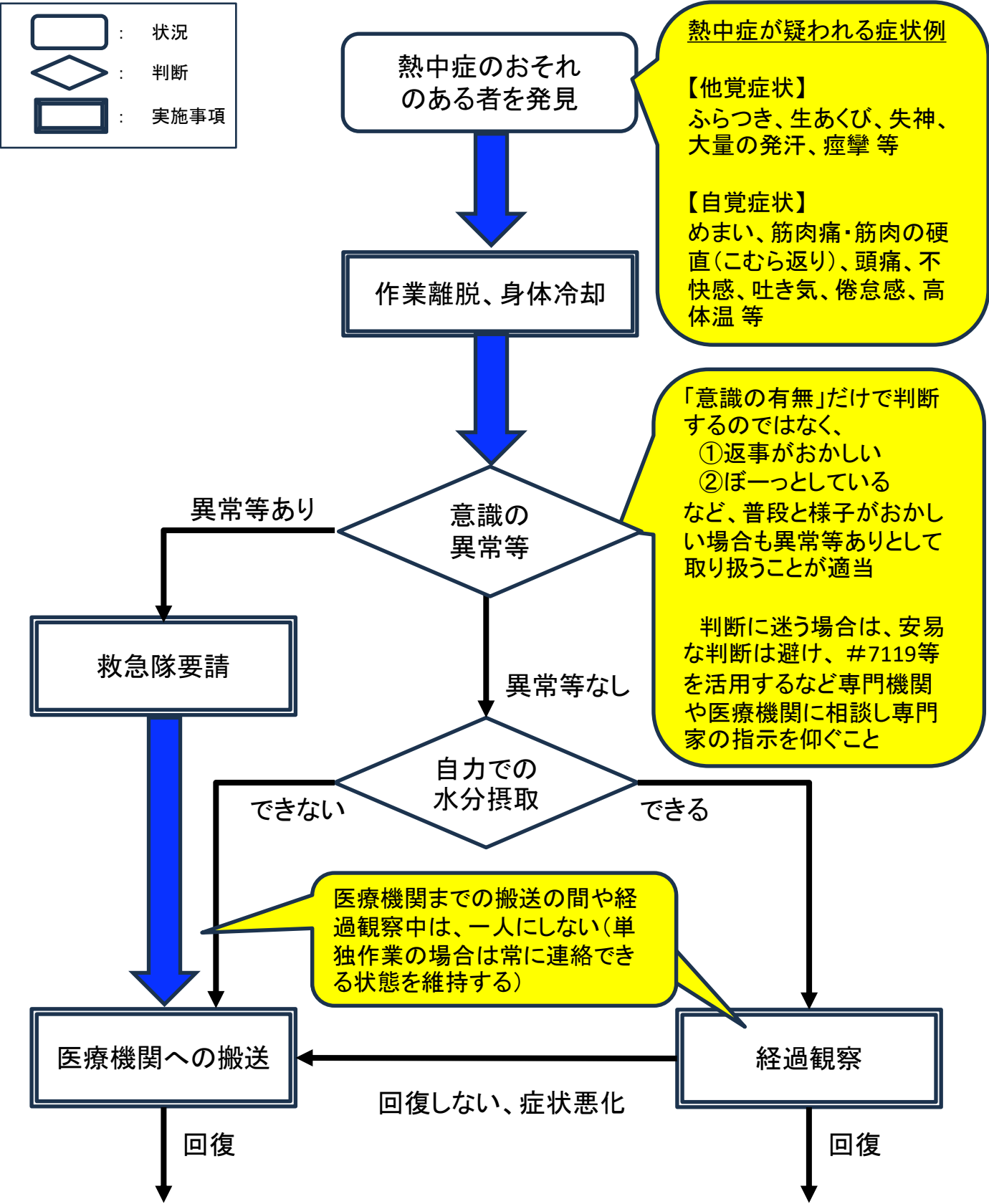


熱中症のおそれのある者に対する処置の例(フロー図)

別添①



回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておく

熱中症のおそれのある者に対する処置の例(フロー図)

別添②



熱中症のおそれ
のある者を発見



作業離脱、
身体冷却等



医療機関への搬送、
必要に応じて救急隊
要請

熱中症が疑われる症状例

【他覚症状】

ふらつき、生あくび、失神、
大量の発汗、痙攣 等

【自覚症状】

めまい、筋肉痛・筋肉の硬
直(こむら返り)、頭痛、不
快感、吐き気、倦怠感、高
体温 等

※①返事がおかしい

②ぼーっとしている

など、普段と様子がおかし
い場合も、熱中症のおそれ
ありとして取り扱うことが適
当

医療機関までの搬送の間や経
過観察中は、一人にしない(単
独作業の場合は常に連絡できる
状態を維持する)

#7119等を活用するなど、
専門機関や医療機関に
相談し、専門家の指示を
仰ぐことも考えられる

回復

回復後の体調急変等により症状
が悪化するケースがあるため、
連絡体制や体調急変時等の対
応をあらかじめ定めておく